

大阪湾漁場環境速報

2022年11月11日発行
兵庫のり研究所

湾奥部において、小型珪藻のスケルトネマが多く確認されています。窒素は、陸水等の影響が見られた湾奥部を除き、海域全般に概ね5 μg-at/L台の値でした。

(水温) 表層は湾内概ね19~21℃台で、平均20.6℃。ほぼ平年並。-10m層は平均20.8℃(平年並)。

(塩分) 表層平均32.47psu(平年 31.30)。-10m層平均32.63psu(平年 31.96)。

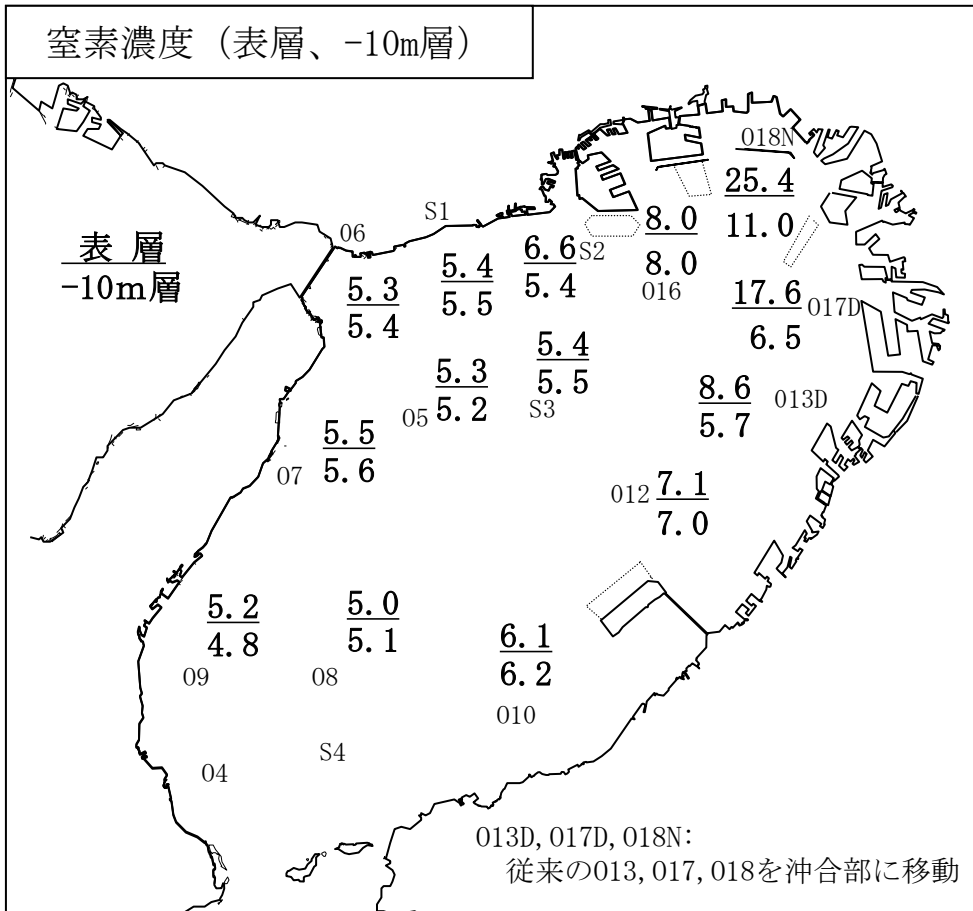
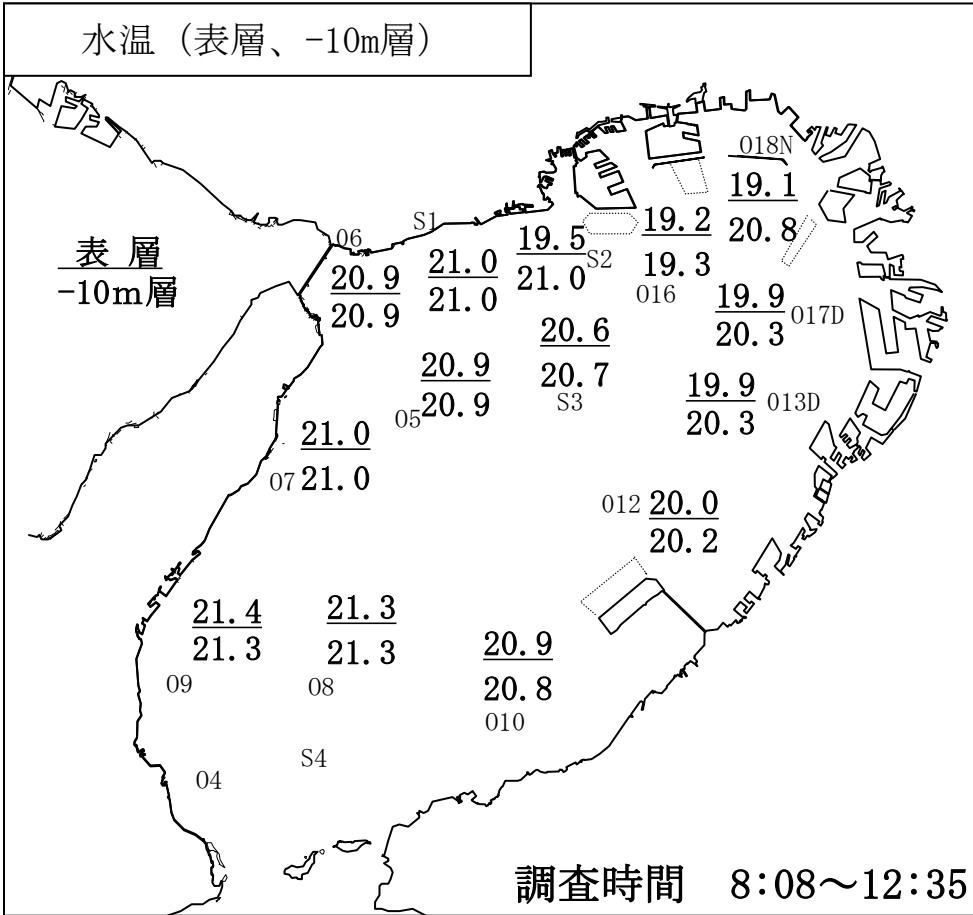
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均5.9 μg-at/L、リンは平均0.53 μg-at/L。窒素は平年(7.0 μg-at/L)よりやや低く、リンも平年(0.59 μg-at/L)よりやや低い。-10m層(平均)は、窒素5.8 μg-at/Lで表層よりやや低く、リン0.57 μg-at/Lで表層よりやや高い。

神戸空港東から湾奥・岸和田にかけては表層の水温及び塩分が低く、表層の窒素は概ね8 μg-at/L以上あり、スケルトネマが多く確認された。-10m層においてもスケルトネマは確認されるが、発生量は表層と比較して少ない。

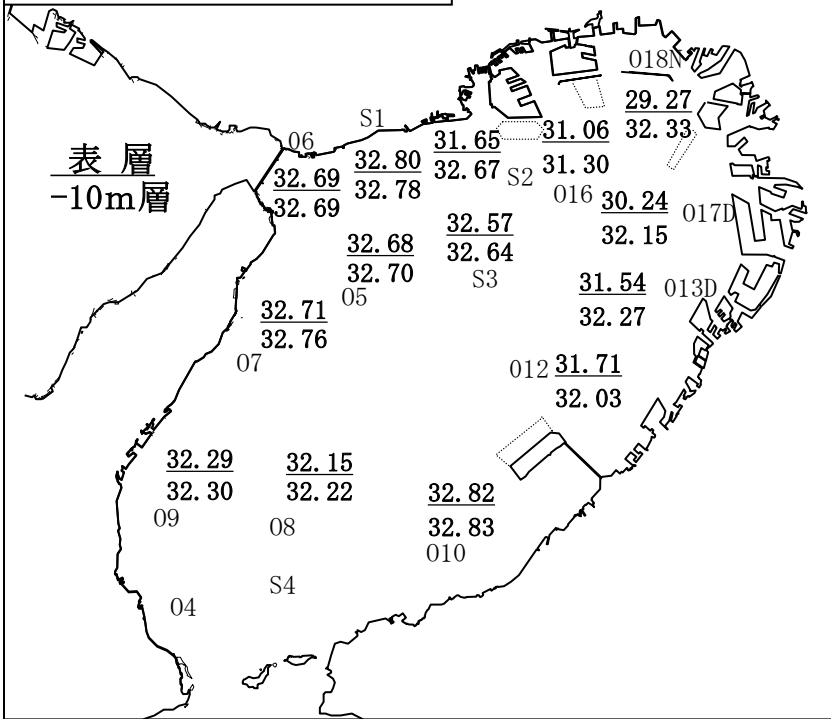
その他の海域では、表層において小型珪藻のキートセロスがごくわずかに確認された。窒素は、表層及び低層ともに概ね5~6 μg-at/L台の値であった。

上段 (今回値)	2022年11月10日調査
中段 (昨年値)	
下段 (平年値)	11月上旬

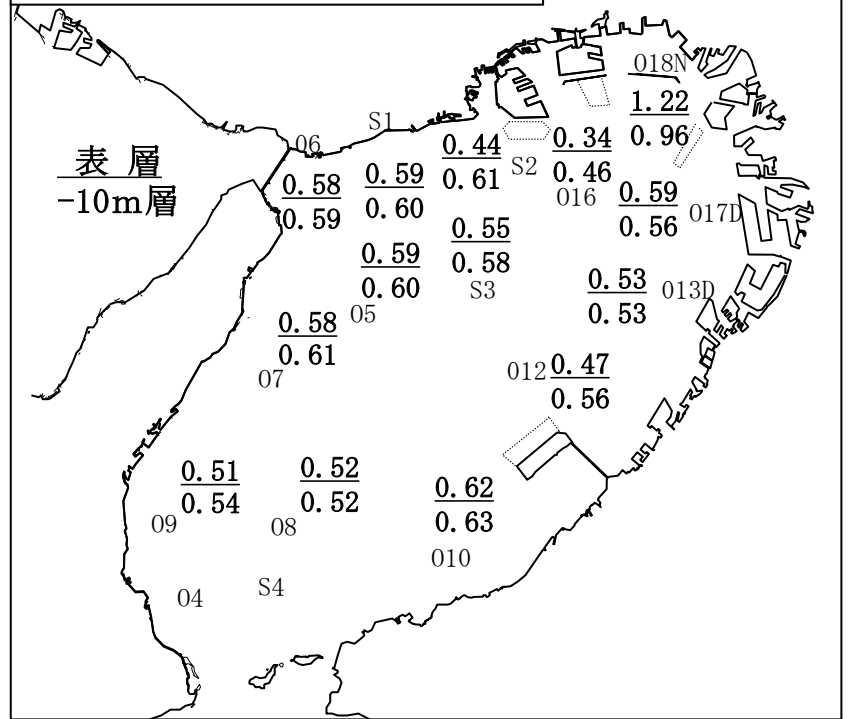
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 (μg-at/L)	リン酸 (μg-at/L)
04	21.1	32.31	4.8	0.45
05	20.9	32.68	5.3	0.59
06	20.9	32.69	5.3	0.58
07	21.0	32.71	5.5	0.58
08	21.3	33.15	5.0	0.52
09	21.4	33.29	5.2	0.51
010	20.9	32.82	6.1	0.62
012	20.0	31.71	7.1	0.47
013D	19.9	31.54	8.6	0.53
016	19.2	31.06	8.0	0.34
017D	19.9	30.24	17.6	0.59
018N	19.1	29.27	25.4	1.22
S1	21.0	32.80	5.4	0.59
S2	19.5	31.65	6.6	0.44
S3	20.6	32.57	5.4	0.55
S4	20.9	31.39	6.5	0.58
	21.1	32.31	4.6	0.47



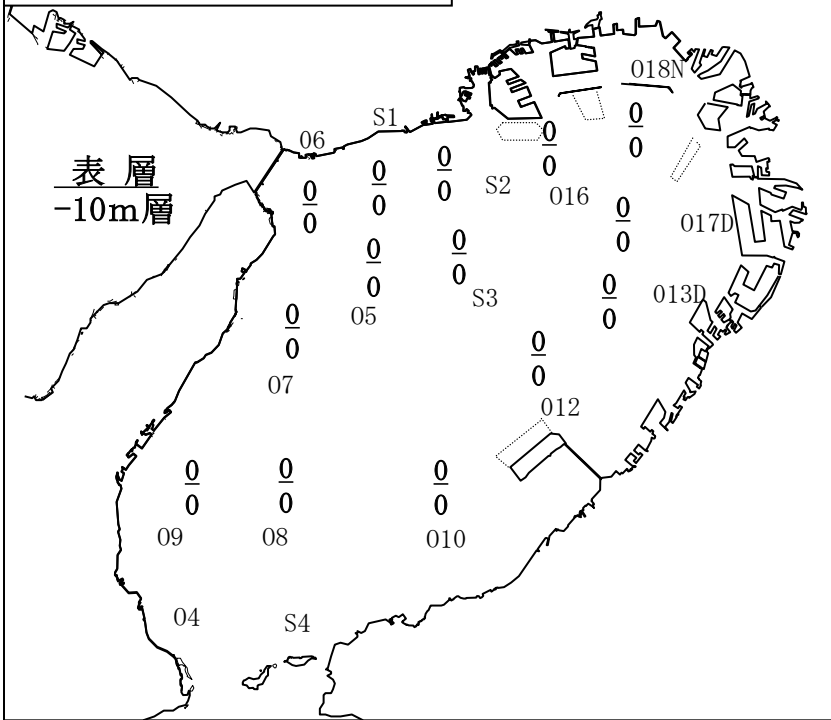
塩分 (表層、-10m層)



リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)

